

令和8年6月1日

飯能信用金庫 DX戦略 (2026-2028)

ごあいさつ

私たち飯能信用金庫は、中期経営計画-GROW UP 2026-において、「地域×人×組織」の成長を通じ、地域のみなさまと価値を共創するプラットフォームを目指しています。

人口減少や少子高齢化、お客さまニーズの多様化、デジタル社会の進展など当金庫を取り巻く環境が大きく変化するなか、お客さまへの提供価値をより一層高めていくため、「DX戦略」を策定いたしました。

当金庫のDXは、単なる効率化やIT化ではありません。お客さまとの「Face to Face」による対話をさらに強化していくため、デジタル化による業務改革で生み出された「人」と「時間」を、お客さま一人ひとりの課題解決に向けた支援へ振り向けてまいります。

これからも当金庫は、「つながり続ける、挑み続ける、未来を彩る笑顔のために。」というパーパス実現に向けて、存在感のある経営を実践してまいります。



理事長 松下 寿夫

中期経営計画におけるDX戦略の位置づけ

中期経営計画 全体像

パーパス(地域における存在意義)

つながり続ける、挑み続ける、未来を彩る笑顔のために。

経営理念(当金庫の使命)

私たち飯能信用金庫は、存在感ある経営を実践し、地域の住民と中小企業の信頼できるパートナーとして地域社会の発展に寄与し、豊かな未来を実現します。

中期経営計画(2026-2028) — GROW UP 2026 —

基本方針Ⅰ 地域の持続的な成長

重点施策

1. 四次元的地域密着型金融の実践
2. 伴走支援型地域プラットフォームの充実
3. 地域事業者への本業支援の高度化

基本方針Ⅱ 人財の活躍と成長

重点施策

1. キャリア開発の促進
2. 役職員全員が活躍できる組織づくり
3. 自己・組織効力感の醸成

基本方針Ⅲ 組織の変革と成長

重点施策

1. お客さま目線での業務改革
2. 経営資源の最適な配分
3. ブランディングの強化

デジタルによる成長加速

地域の持続的な成長

価値を創り未来を支える

対面とデジタルを通じて地域課題に向き合い、課題解決と新たな価値を提供する

人財の活躍と成長

学び続ける人財の育成

デジタル社会に必要な知識と挑戦力を育み、地域金融を支える人財基盤を強化する

組織の変革と成長

変化に強い組織の構築

デジタルを軸に業務と意識を進化させ、環境変化に柔軟に対応できる組織を築く

DX戦略は、経営理念・パーパス実現のため、中期経営計画をデジタル面から支える経営実行戦略



ひと、まち、きずな大切に。

飯能信用金庫

当金庫を取り巻く環境の変化とDXの必要性

様々な環境変化を成長機会と捉え、Face to Faceとデジタルの融合を進める



DX戦略の全体像

《当金庫のDXビジョン》

Face to Faceとデジタルの最適な組み合わせを通じた業務改革・経営改革を行い、質の高いソリューションを提供することで、より一層地域に貢献していく

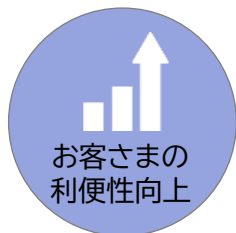
《ビジネスモデルの方向性》

- ◆ Face to Faceによる付加価値提供と、非対面サービスによる利便性向上の両立
- ◆ データ活用による本業支援、資産形成支援および課題解決型提案の高度化
- ◆ 業務効率化により創出した経営資源を、お客さまとの対話や生産性の高い業務へ再配分

《3つの基本方針》

- I お客さま目線での利便性向上および接点強化
- II 業務改革による生産性向上および業務効率化
- III DX推進基盤確立のための人財育成および体制整備

DX戦略の具体的施策



基本方針Ⅰ-1

- 電子契約によりスピード感のある契約締結と事務負担の削減を実現。
- 独自アプリにより来店不要での手続き範囲拡大。お客さまの利便性向上とつながり強化。
- 事業者向けサービスを拡充し、対面と非対面双方からニーズへの対応と課題解決を進める。



基本方針Ⅰ-2

- HP改修やSNS強化によりお客さまとの接点を広げ、各種情報の発信を強化。
- BankNeo更改や情報マッチング強化により、情報の蓄積と最適な提案につなげる。
- スマートフォンを全職員配布しお客さまとつながる環境を整備。内線化、通達やメール閲覧も実現。



基本方針Ⅱ

- 生成AIによりムダな作業時間を削減し、お客さまとの面談時間創出やサービスの質向上を図る。
- PCを全職員に配布し、スムーズな情報閲覧と遠隔地での庫内Web会議を実現。
- 金庫内回線の見直しにより、職員一人ひとりのPCでPOWER EGGとインターネットが利用可能。



基本方針Ⅲ

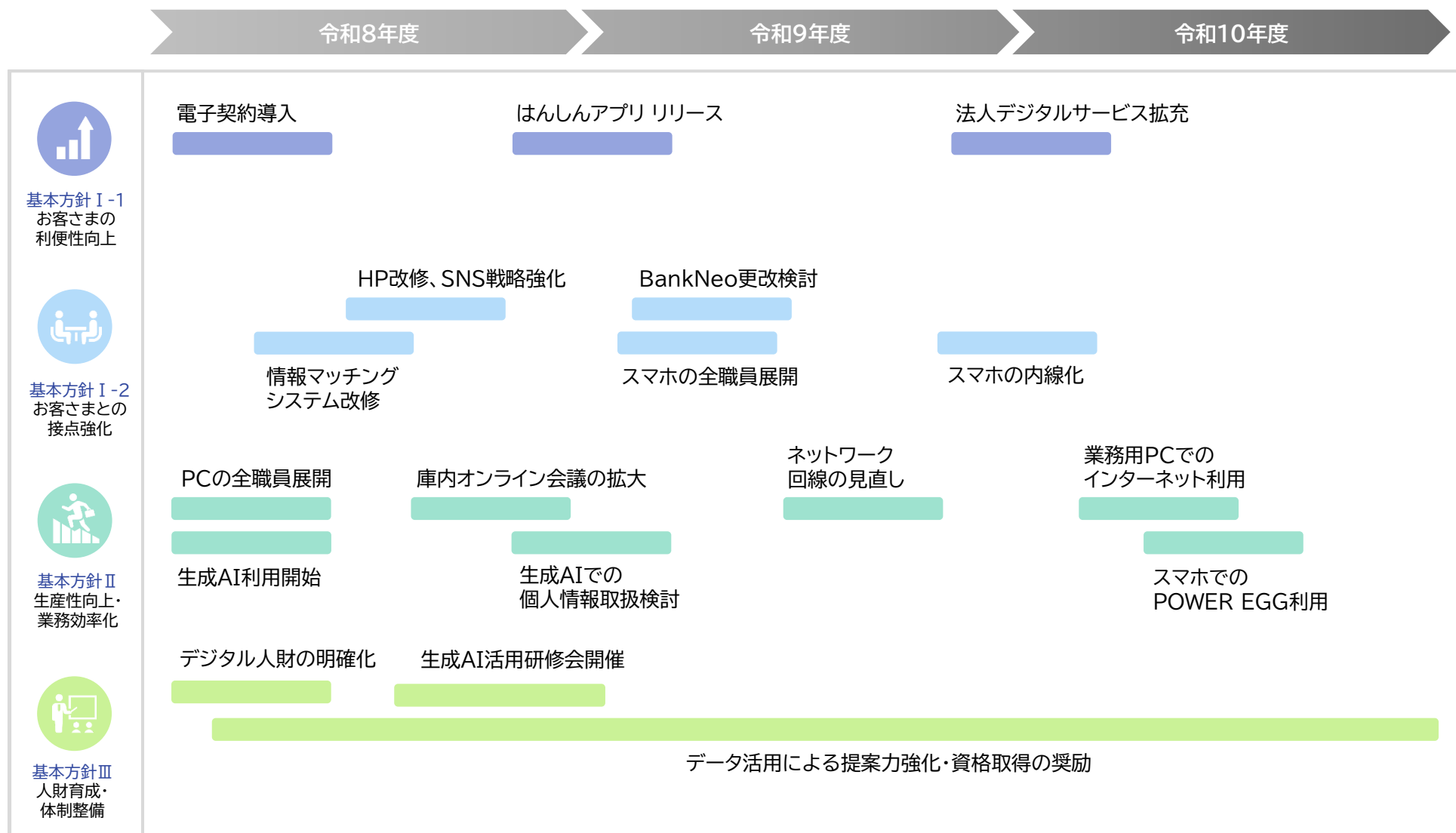
- デジタル人財を定義し、外部出向等を活用した組織的な人財育成を実施。
- IT知識習得、データ利活用促進のための資格取得を継続的に奨励。
- 生成AI等の効果的な活用を目的に、組織横断的なワーキンググループを開催。



ひと、まち、きずな大切に。

飯能信用金庫

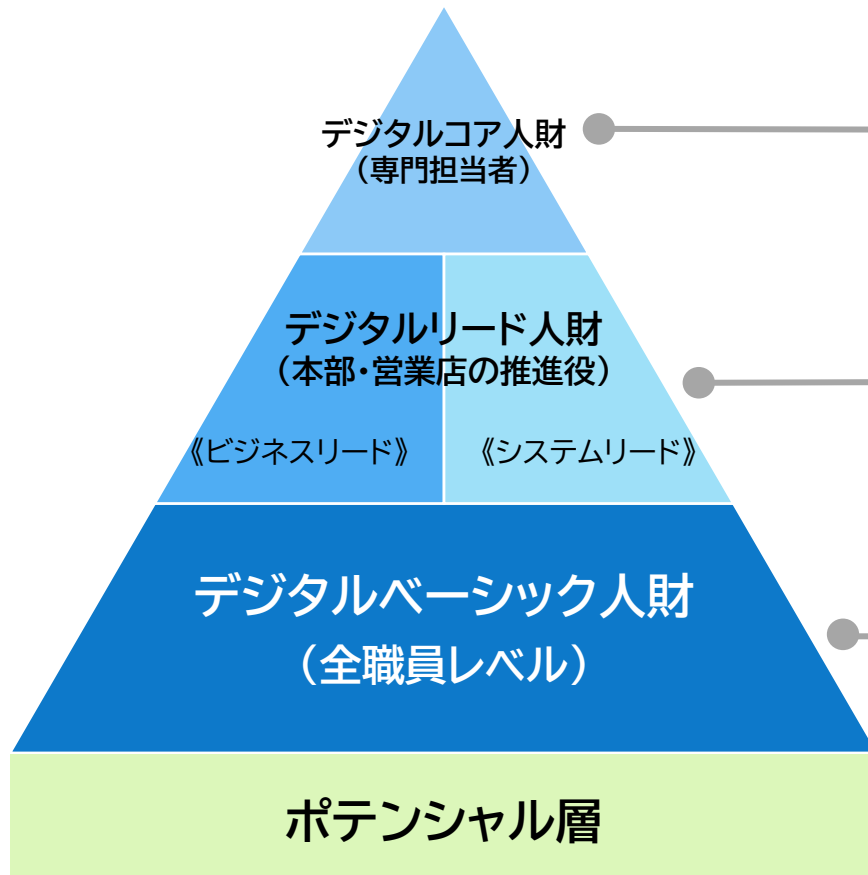
具体的施策の実施スケジュール



デジタル人財像の明確化と育成

デジタル人財を明確に位置づけるとともに、DX関連資格の取得奨励などの人事施策を通じて、職員全体のITリテラシー向上を推進する

各階層における定義、求める役割



定義:金庫全体のデジタル戦略、データ等の高度活用を担う専門人財

- ・デジタル戦略を構想、設計し、DX施策を企画立案する。
- ・各種システム、データ構造の全体像を理解し、中長期視点で投資計画を立案する。
- ・法令、リスク管理、セキュリティを踏まえた上で、攻めと守りのバランスが取れる。

定義:各部署・営業店の現場単位でデジタル活用と業務改革を牽引する人財

- ・現場でのデジタルを活用した業務改善や営業活動、サービスの高度化をリードできる。
- ・お客さまのDX化や庫内の業務プロセスを考え、デジタルツールを用いて企画・提案できる。
- ・ベーシック人財の相談役として、職員からの質問、操作相談に対応できる。

必要資格:ITパスポート、情報セキュリティマネジメントのいずれか

ビジネスリード人財要件:必要資格×業務経験(事業性担当経験3年以上)

システムリード人財要件:必要資格×業務経験(システム関連業務経験3年以上)

定義:デジタルを正しく理解し、日常業務で活用できる人財

- ・提供されたデータを理解・分析し、データ起点に効率的な活動(営業)につなげられる。
- ・生成AI等により自身の業務効率化が図れ、付加価値の高い業務へとシフトできる。
- ・お客さまへ基本的なデジタルサービスの提供(非対面商品や提携先の説明)ができる。

必要資格:生成AIパスポート、金融IT検定、金融業務3級(DXコース)のいずれか

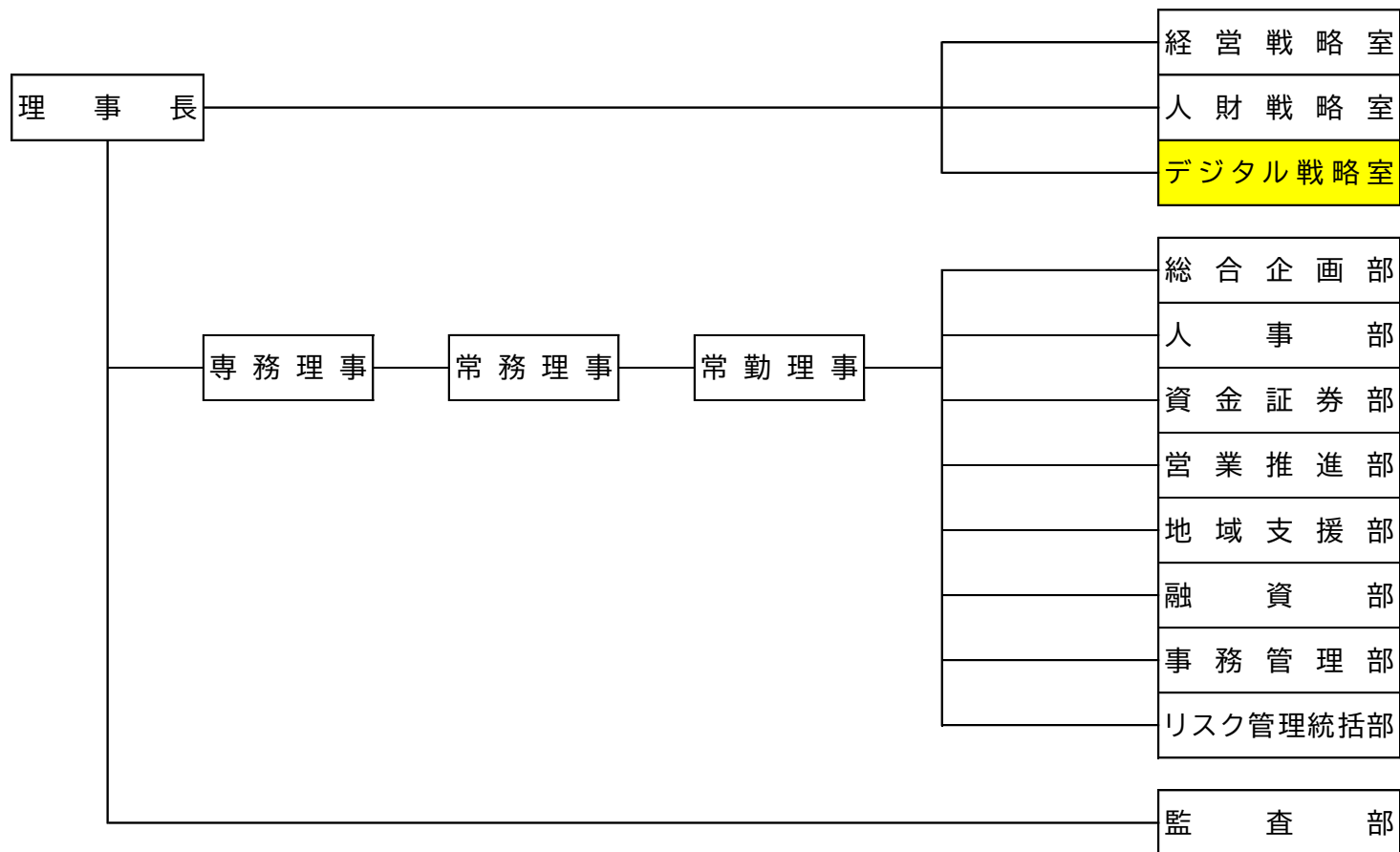


ひと、まち、きずな大切に。

飯能信用金庫

DX推進体制

組織横断的に業務効率化・経営合理化を目的としたDX戦略の企画・立案を行うために、「デジタル戦略室」を理事長直轄の部署として配置



DX評価指標

総合的な管理指標としての「DX推進指標」とDX戦略の観点からKPIを設定

項目	指標	令和10年度末
総合指標	DX推進指標※1を活用した現況把握	—
利便性向上・接点強化	アプリバンキング 新規登録者数	30,000名
生産性向上・業務効率化	生成AI 月間アクティブユーザー率	60%以上
人財育成・体制整備	DX関連奨励資格※2 取得者数	300人

※1 DX推進指標:経済産業省が作成した指標。自社のDXの進行度を自己診断するために利用可能なツール。

※2 DX関連奨励資格:ITパスポート、情報セキュリティマネジメント、生成AIパスポート、金融IT検定、金融業務3級(DXコース)。